

大和村防災マップ

思勝地区

我家の避難場所

津波の心得

津波情報に注意する

津波警報

地震が発生したら、テレビやラジオ等をおいて津波情報が入手することが大切です。津波の到達時間が浸透時に重なった場合は、発表値より高くなる場合もあります。

津波のしくみ

津波の発生

1 地震により海底・海面が隆起・沈没
2 隆起沈没が大きな波となり四方八方へ伝播→沿岸へ到達

地震が発生したら、テレビやラジオ等をおいて津波情報が入手することが大切です。津波情報には、常に注意しましょう。

津波の速さ

約速400km/h 約速200km/h 約速100km/h 約速50km/h

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくにつれ、後から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の遡上高

津波の高さ
津波の遡上高
津波の到達高

「津波の高さ」とは津波がない場合の潮位（平常潮位）から、津波によって海面が上昇した時の高さの差を言います。さらに、海岸から内陸へ津波が、かけ上がる高さ（幅高）を「遡上高」と呼んでおり、高い場合には3〜4倍程度までなることが知られています。

土砂災害危険箇所・危険区域図

土砂災害の発生時には、こんな現象が起こることもあります。

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の流れが滞り、洪水が溢れ始める
- 斜面から水が噴き出す
- 沢や井戸の水が濁る
- 地面がひび割れがでる
- 山石がバラバラ落ちてくる

◎いざという時のために、覚えておきましょう。

- 1時間に20ミリ以上、または100ミリ以上の雨が降ると、土砂災害の危険が高くなる。
- 土砂災害の発生時は、速やかに避難場所へ避難する。
- 避難時は、必ず水の浸からない道路へ速やかに移動しよう。
- 洪水による水の流れが、場所によっては相当速いことが予想されます。避難時には、水の流れの速さにも十分注意しましょう。
- 村役場などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や崖崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。

避難時の心得

- ラジオ、テレビで最新の気象情報、洪水情報を入力しましょう。
- お年寄りや子供は、早めに避難が必要です。
- 避難する時の荷物は必要最小限(非常食、飲料水、懐中電灯、携帯ラジオなど)にし、2人以上の避難を心掛けましょう。
- 徒歩での避難を心掛けましょう。車を使つての避難には、危険を伴うことがあります。
- 避難する時は、必ず水の浸からない道路へ速やかに移動しよう。
- 洪水による水の流れが、場所によっては相当速いことが予想されます。避難時には、水の流れの速さにも十分注意しましょう。
- 村役場などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や崖崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。

◎デマにまどわされない!!

災害時は、デマなどに惑わされやすくなります。報道機関や区市町村、消防・警察などから情報を注意しましょう。

◎山崩れ・崖くずれ・津波にも注意!!

山崩れ・崖くずれ・津波が発生しそうな地域では、すばやく避難しましょう。

| 凡 例 | |
|---------------|----|
| 名称 | 記号 |
| 避難場所 | |
| 土砂災害警戒区域等 | |
| 土石流特別警戒区域 | |
| 土石流警戒区域 | |
| 急傾斜地の崩壊特別警戒区域 | |
| 急傾斜地の崩壊警戒区域 | |
| 標高色 | |
| 10~20m | |
| 0~10m | |

土石流危険渓流

- 渓流の勾配が急である。
- 渓流に大きな石がごろごろしている。
- たくさんの土砂が堆積している。
- 上流が山崩れなどで荒れている。
- 過去に土石流があった。

地すべり危険箇所

- 過去に地すべりがあったところ、今も少しずつ動いている。
- わき水や地下水が豊富である。
- 断層があるところやもろく崩れやすい岩石がある。
- 火山作用あるいは温泉の作用で粘土化した土がある。

急傾斜地崩壊危険箇所

- 山の傾斜に亀裂やわき水がある。
- 岩石がもろく崩れやすい地質である。
- 過去に山崩れがあった。
- 山崩れがあった場所に隣り合っている。
- 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- 水の集まりやすい斜面地形である。
- とどきき落石がある。

大和村役場